栃木県埋蔵文化財センターだより

2011
6月
やまかいどう

発行　平成23年6月10日
栃木県教育委員会
宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集　(財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL http://www.maibun.or.jp

いいひと いいこと つぎつぎ "とちぎ"

CONTENTS

○平成22年度栃木県内の発掘調査情報
・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から
西刑部西原遺跡（宇都宮市）　菅田古墳群（足利市）
頼朝塚古墳群（市貝町）　星ノ宮遺跡（市貝町）
鷲宿遺跡（さくら市）
・市町教育委員会が実施した発掘調査から
那須官衙遺跡（那珂川町）　下野薬師寺跡（下野市）
史跡樺崎寺跡（足利市）　烏山城跡（那須烏山市）
○平成22年度栃木県内発掘調査一覧
○平成22年度栃木県発掘調査動向
○北関東自動車道全線開通記念「つながる北関発掘展」開催
○平成23年度巡回展　「栃木の遺跡－最近の発掘調査成果から－」

■平成22年度栃木県内の発掘調査情報

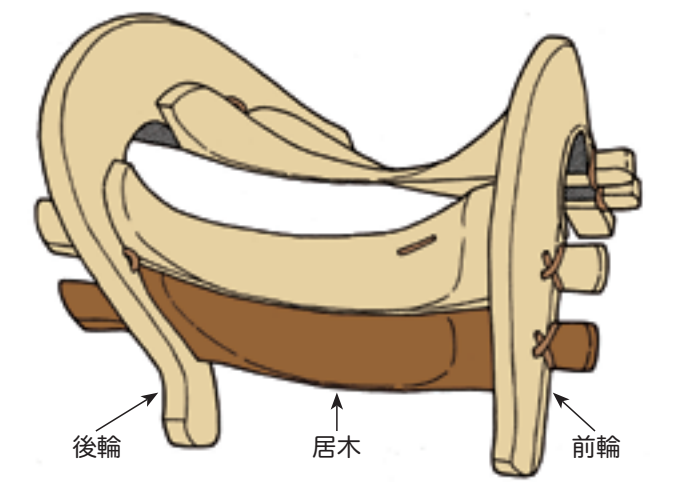
埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から

1．西刑部西原遺跡（宇都宮市）–平安時代の井戸から出土した鞍–

「これは何だろう？」平安時代（今から約1,150年前）の井戸底から見つかった木製品の水替えをしていると、見慣れない形のものが顔を出した。腕組みする私をよそに一人の職員が「鞍の部品では？」とサラリと言った。鞍は馬の背に乗せる座席のようなものだが、イメージが浮かばない。急いで本を広げ正倉院の宝物と見較べてみると、思わず声が出てしまった「本当にそっくりだ!!」。

この謎の木製品は、鞍の座面にあたる「居木」と呼ばれる部品でした。当時の鞍は、「直立」する前輪と「後ろに傾斜」する後輪を4枚の居木でつないでいました。形をよく観察すると4枚あるうちの右端の居木であることが分かります。座面の中央部は座りやすいように削られ、厚さ5ミリ程しかありません。2対ある突出部は前輪と後輪にしっかり組み込めるよう、立体パズルのような形をしています。また突出部の根本には紐で括り付けるための穴も空けられています。

材料は硬く丈夫なアカガシ製、部分的に残る黒い塗料は「漆」で、全面に塗られていたと考えられます。残念ながら、井戸の中から鞍の部品は他に見つかりませんでしたが、全国的に見てもこの時代の居木が出土した例は非常に少なく、貴重な発見となりました。



西刑部西原遺跡から出土した鞍の復元想定図

井戸から出土した「居木」（鞍の部品）

2. 菅田古墳群（足利市）–つぎつぎ復元される埴輪と須恵器の大甕–

菅田古墳群は、平成17・18年度に北関東自動車道の建設に伴って発掘調査を実施しました。この古墳群は、足利市街地北方の丘陵上にあり、直径20ｍ前後の小型の古墳が50基ほど密集しています。造られた時期は、今から約1,500～1,400年前の古墳時代の終わり頃で、そのうちの10基と、周囲にある小さい墓３基を今回発掘しました。そして昨年度から出土遺物や図面の整理作業を始め、来年３月の調査報告書完成を目指して、ただ今頑張っています。

現在は、埴輪の実測と復元作業、それに古墳の図面の清書などを行っています。古墳からは多くの埴輪や土器などが出土しましたが、ほとんどは壊れて破片になっていました。しかも千数百年もたっていますから、それらが広い範囲に散らばっていますし、全部残っているとは限りません。そのような破片を細心の注意を払って組み合わせ、立体パズルのように組み立ててゆきます。破片が見つからなかった部分や、数が足りなくてそのままでは組み上げられない箇所には、特殊な石膏で補いながら慎重に復元してゆきます。この作業は菅田古墳群の報告書を作成する上で最も大切な仕事のひとつと言えます。

埴輪の復元作業

須恵器大甕の復元作業

3. 頼朝塚古墳群（市貝町）–古墳時代終末期の円墳と方墳を調査–

頼朝塚古墳群は、真岡鉄道市塙駅の北約１㎞に位置し、小貝川左岸の標高137～138ｍの丘陵上に立地しています。同古墳群は南北700ｍ、東西300ｍの範囲に12基の古墳が知られていました。今回、古墳群の南端に位置する円墳（12号墳）と新たに見つかった方墳（13号墳）の発掘調査を行いました。墳形は異なりますが、共に、南側の斜面に張り出すように築かれた山寄せ古墳です。そのため、墳丘南側では、周溝は見られませんでした。規模は、円墳は径21ｍ、方墳が一辺18ｍほどです。

主体部は共に、南側に墓道を持つ横穴式石室で、後世の盗掘により石室に使われた石の多くが抜き取られていました。方墳では辛うじて天井石の一部が残っていましたが、石室内からは遺物は見つかりませんでした。一方、円墳の北側周溝内から、須恵器の大甕が割られた状態で出土しました。墓道や墓道周辺の墳丘南側からも須恵器の坏・蓋などがまとまって出土しました。また、円墳の墓道覆土から、瑪瑙製の勾玉が１点出土しました。

主体部から遺物が出土していないので、時期を決めるのが難しいのですが、主体部の形態から考えて、古墳時代の終末期（７世紀中頃）の古墳と思われます。

南上空からみた方墳（13号墳）

円墳周溝内から出土した須恵器の大甕

4．星ノ宮遺跡（市貝町）–中世の小柄（刀の鞘にさしそえる小刀）出土–

星ノ宮遺跡は、小貝川周辺ほ場整備の事前調査として発掘が進められています。

遺跡のある文谷地区は、古くは文屋・布宮とも書き、鎌倉時代には宇都宮氏家臣の関沢一族が治めていました。天文20年（1551）、芳賀高定は那須家の内紛に乗じ、千本資俊に那須高資を殺害させ、その恩賞に「文谷・市花輪（市塙）」を与えています。

遺跡は星宮神社の東に近接し、小字は「荒屋敷」（新屋敷ヵ）、神社の西の地は「古屋敷」と呼ばれています。遺跡のある地形は緩やかな斜面地で、約1.5ｍ掘ると水が涌きます。遺跡からは、小貝川対岸丘陵上に文谷城跡が臨める場所です。

調査は平成22・23年度の継続事業で、本年度は11,100㎡の約1/3を発掘し、竪穴建物跡３軒、掘立柱建物跡12棟、井戸５口、溝２条、土坑87口を精査しました。掘立柱建物跡の柱穴からは、カワラケと小柄が出土し、伝承のとおり、武士が住んでいた可能性が考えられます。他には、縄文土器・砥石・石臼片などが出土しました。

確認された掘立柱建物跡（東から）

柱穴内のカワラケと小柄の出土状態

5．鷲宿遺跡（さくら市）–鷲宿城の北東辺下の「宿」を調査–

さくら市の北東部、喜連川工業団地に近く、喜連川市街地から北西へ約5㎞にあります。東側約1㎞には内川が南流し、喜連川丘陵の東縁に立地しています。

鷲宿城は、塩谷朝宗の居館として築かれたなど諸説あり、その始まりは不明ですが、『続群書類従』巻152には宇都宮系図に塩谷朝業の曾孫朝宗の子、鷲宿四郎貞朝の名が見えます。また『那須記』には、豊臣秀吉より岡本正親へ塩谷領が与えられたのを期に、塩谷安房守義上が「喜連河の城を明退給いて、ワし（鷲）しゅく（宿）に越給いける」とあります。その後の文禄４年（1595）、高野山清浄心院所蔵の供養帳には「下野宇都宮鷲宿塩谷安房守妹の為にこれを立つ」とあり、城館は16世紀末までは存続していたと見られます。城館の中心には、現在松岩寺があり、北東辺は鷲宿を見下ろす段丘、三辺は土塁に囲まれた約60ｍ四方の曲輪が残っています。

今回の発掘調査区は、その北東辺下の「宿」の位置にあたります。現況道路の幅を拡げるための調査で、1,700㎡と限られた面積です。近世以降の削平を一部受けていましたが、井戸跡１基、溝跡２条、土坑90基、陶磁器や金属製品・石製品などの遺物が出土しました。

道路拡幅の細長い調査区（北から）

井戸から出土した五輪塔や土器片

市町教育委員会が実施した発掘調査から

6. 史跡那須官衙遺跡（那珂川町）ー官衙を縦断する道路跡を確認ー

那須官衙遺跡は、今から1,300年前にさかのぼる奈良平安時代の下野国那須郡の郡役所跡です。古くから「梅曽廃寺跡」と呼ばれ、昭和15年に発見された銅印「萪□私印」は重要文化財となっています。昭和42年から本格的な発掘調査が行われ、税を治めた「倉」が広範囲に及ぶことから「役所」として昭和51年に国指定史跡となっています。遺跡は大溝で区画された「倉」、「館」「曹司（実務的な役所）」を構成する建物が発見され、南北200ｍ以上、東西600ｍにも及びます。

平成22年度に実施した第26次調査では、遺跡南辺部分の様相を明らかにするため６本のトレンチを設定しました。今回の調査では、官衙の西区画（倉）と中央区画（曹司）間を縦断する古代の道路跡（SF370）を確認することできました。道は２本の溝（側溝）の間が路面となり、幅は約8.5ｍありました。溝は新旧２時期に分かれ、新しい溝は幅広く改修されていました。西側側溝周辺には踏み締まりの痕跡がみられ、盛んな往来の痕跡と考えられます。

那珂川町教育委員会（0287-96－2116）

道路跡 [SF370] の確認状況（西から）

道路跡 [SF370] の完掘全景（南から）

7. 史跡下野薬師寺跡（下野市）ー創建前の掘立柱建物跡を発見ー

下野薬師寺跡は、過去の調査で出土した瓦の文様などから７世紀末頃に創建された寺院跡です。天平宝字５年（761）には、僧の受戒のために戒壇が東大寺・筑紫観世音寺とともに設置され、後に「日本三戒壇」と呼ばれた由緒ある寺院です。室町時代には、南北朝の戦いの戦没者追悼のために足利氏が全国に安国寺を建立しましたが、下野国では下野薬師寺を安国寺として使用したと言われ、その法灯は現代まで続いています。

平成22年度の調査は、今後の史跡整備に向け県道東側で再建の塔の南西部に調査区を設置し、調査をおこないました。その結果、下野薬師寺に先行する遺構として掘立柱建物跡１棟を確認しました。この建物は、東西６間・南北２間（15×６ｍ）の東西棟の建物で、建物の向きが下野薬師寺の主要堂塔の方向と異なるため、伽藍とは時期が異なり、整地層の下層で確認されていることから、薬師寺に先行する建物と考えられます。今回の調査区では、安国寺に伴う遺構と遺物が確認されたことから安国寺が県道の東へも広がることが判明しました。　　下野市教育委員会（0285-52-1120）

掘立柱建物跡の確認状況

発掘調査風景

8．史跡樺崎寺跡（足利市）–江戸期の池からたくさんのお賽銭が出土–

史跡樺崎寺跡は中世を代表する豪族武士団・足利氏の氏寺跡・廟所跡で、足利市北東の樺崎の谷に位置します。

樺崎寺は文治５年（1189）、源姓足利氏二代目の足利義兼が奥州合戦の戦勝祈願のために創建したとされ、鎌倉・南北朝・室町時代を通して発展します。昭和59年度より行われた発掘調査では、八幡山山麓の堂塔跡や浄土庭園跡などが良好な状態で確認され、平成13年１月に国の史跡に指定されました。

平成22年度の発掘調査で、園池北部東岸を調査した結果、江戸時代の堆積土中から寛永通宝153枚、北宋銭３枚が狭い範囲に集中して出土しました。これらの銭が出土した地点のすぐ西側には、平成14・15年度の調査で確認された弁天島が位置しており、おそらく、池岸から弁天島に向かって賽銭を投げ入れていたものと考えられます。この弁天島は室町時代につくられたもので、その後、池を改修するたびに、周囲に堆積した土を盛りつけ、次第に大きくなっていったことがわかっています。

今回の調査で、江戸時代以降も信仰の対象として、たくさんの人がこの地を訪れていたことが確認できました。

足利市教育委員会（0284-20-2230）

東上空からみた史跡樺崎寺跡

寛永通宝の出土状況

9．烏山城跡（那須烏山市）–本丸上段部法面の石積みを確認–

烏山城は、中心市街地北西に位置する独立丘陵（標高206ｍ）を中心に築かれた連郭式の山城です。本年度は、本丸の地形測量と、遺構確認調査を行いました。

本丸は、南面約70ｍ、北面約40ｍの台形状で、北端には高さ約１ｍの鎌柄状の高段が設けられています。高段平坦面では、柱痕や礎石が確認できませんでした。これは、古本丸と本丸との高低差（約３ｍ）を補う中継的な役割、防御上の理由などから、高段を広い空間として利用していたのではないかと考えられます。高台南側の法面は、以前より一部に石の露出が見られましたが、調査で２～３段の石積みで、広範囲に行われていることが判明しました。

江戸時代（正保年間）に描かれた「正保城絵図」では、古本丸が実線のみの表現に対し、本丸は周囲に土塀と礎石建物などが描かれています。17世紀中頃には曲輪の重要度に大きな差が生じていたようです。今回の調査では、これを証明するような成果は得られませんでしたが、出土遺物に17世紀代の陶磁器などが含まれることから、本丸は近世に至り、城の中枢として重要度を増していったことがうかがえます。　（那須烏山市教育委員会　0287-88-6233）

高段法面の石積み検出状況

本丸から出土した陶磁器

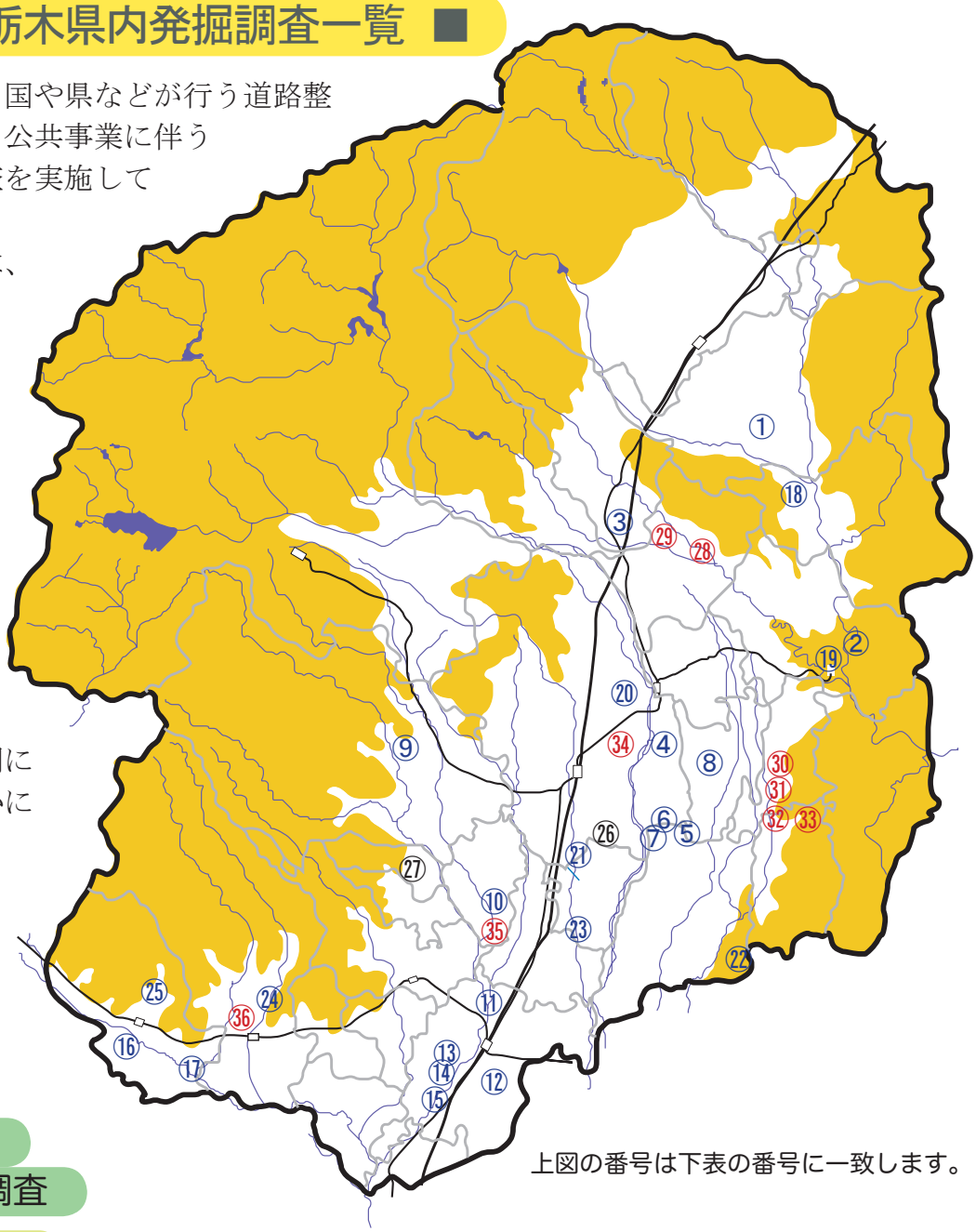
■ 平成 22 年度栃木県内発掘調査一覧 ■

埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路整備や圃場整備事業などの、公共事業に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は、市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は遺跡の内容を明らかにするための発掘調査や、史跡整備のための発掘調査も行っています。

このほか、大学など県・市町教育委員会以外の機関による、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。



上図の番号は下表の番号に一致します。

◎市町教育委員会が実施した発掘調査

●記録保存のための発掘調査

番号	遺　跡　名	市　町　名	主な時代
①	片府田富士山遺跡	大田原市	旧石器・縄文
②	三ツ木西和久遺跡	那須烏山市	縄文
③	御前原城跡	宇都宮市	中世
④	刈沼向原遺跡	宇都宮市	古墳
⑤	下上遺跡	宇都宮市	縄文
⑥	鳥井戸遺跡	宇都宮市	古墳
⑦	並塚遺跡	宇都宮市	古墳
⑧	免の内台遺跡	芳賀町	古墳～平安
⑨	壇ノ浦古墳群・壇ノ浦遺跡	鹿沼市	縄文・古墳
⑩	壬生城跡	壬生町	中近世
⑪	烏久保遺跡	小山市	奈良～中世
⑫	雨ヶ谷宮遺跡跡	小山市	縄文・中世
⑬	外城遺跡	小山市	奈良～中世
⑭	千駄塚浅間遺跡	小山市	古墳
⑮	間々田牧の内北遺跡	小山市	古墳
⑯	神宮寺遺跡	足利市	中世～近世
⑰	奥戸遺跡	足利市	近世

●史跡整備等のための発掘調査

番号	遺　跡　名	市　町　名	主な時代
⑱	那須官衙遺跡	那珂川町	奈良～平安
⑲	烏山城跡	那須烏山市	中世
⑳	岡本城跡	宇都宮市	中世
㉑	上神主・茂原官衙遺跡	宇都宮市・上三川町	奈良～平安

（本調査を実施した遺跡の一覧。確認調査は除外した。）

■ 平成 22 年度栃木県発掘調査動向 ■

平成 22 年度も終わろうとした 3 月 11 日 14 時 46 分、東北地方太平洋沖を震源とするマグニチュード 9.0 を記録した地震は未曾有の大災害をもたらした。文化財も多くが被災し、本県でも国指定史跡の大田原市下侍塚古墳の墳頂部に亀裂が入り、宇都宮市飛山城跡や小山市祇園城跡で崖崩れが起きるなど、大きな傷跡を残した。当センターでは収蔵庫の遺物が十数点破損し、本棚から図書や記録類が散乱した程度で、甚大な被害とはならなかった。

さて、昨年度の埋蔵文化財センターの発掘調査は、県の土地基盤整備事業と道路建設に伴う発掘調査が中心でした。市貝町北ノ内遺跡、助五郎内遺跡では古墳時代から平安時代の集落跡、星ノ宮遺跡では中世の屋敷跡などを確認しました。特に、北ノ内遺跡では四面庇の大型掘立柱建物跡が確認され、墨書土器や円面硯などが出土しており注目されます。重要遺跡範囲確認調査の最終年度となる国指定史跡吾妻古墳では、銀装刀子が出土し、羨門の切り組み加工などを確認しました。市貝町頼朝塚古墳群では、古墳時代終末期の円墳と方墳各 1 基を調査しました。

つぎに、市町の調査について時代を追って主なものをみてみましょう。縄文時代では、大田原市片府田富士山遺跡と那須烏山市三ツ木西和久遺跡で中期の集落跡が調査されました。特に片府田富士山遺跡では出現期の石組複式炉を持つ竪穴住居跡や袋状土坑がたくさん発見されました。また、後期初頭の集落跡である宇都宮市下上遺跡では敷石住居跡をはじめ、竪穴住居跡や土坑の調査が継続して行われました。

古墳時代～古代の集落跡では、宇都宮市刈沼向原遺跡・鳥井戸遺跡、小山市千駄塚浅間遺跡などの調査が行われました。小山市間々田牧ノ内北遺跡では長さ 28 m、幅 4.5 mの古墳時代後期では国内最大級の大型竪穴建物跡が発見され注目されます。また、国指定史跡の上神主・茂原官衙遺跡では、東山道と最も近接する箇所で土橋と入口に関わる建物跡が確認され、那珂川町那須官衙遺跡では、幅 8.5 mの直線道路跡が正倉の南で確認されました。

中・近世では、史跡整備等の確認調査が多く実施されました。宇都宮市岡本城跡では主郭の虎口部分で装飾目的と考えられる貼り石遺構を、那須烏山市烏山城跡では本丸上段部法面の石垣を確認しました。佐野市唐沢山城跡では資料で「下御屋敷」の記載のある「御台所」を調査し、建物施設に関連する石列を確認しました。また、足利市樺崎寺跡では園地の調査が行われ、江戸時代に浄土庭園から弁財天の祠に向かって賽銭として投げ込まれたと思われる寛永通宝が 153 枚出土しました。

以上のように、近年、本県では記録保存のための発掘調査の件数は年々少なく、調査面積も小さくなってきていますが、史跡の整備や確認のための調査では、新たな貴重な成果が得られています。

㉒	国史跡専修寺境内 三谷草庵	真岡市	中世
㉓	下野薬師寺跡	下野市	奈良～平安
㉔	唐沢山城跡	佐野市	中世
㉕	樺崎寺跡	足利市	中世

◎その他の機関が実施した遺跡の内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺　跡　名	市　町　名	主な時代
㉖	権現山遺跡	宇都宮市	古墳
	調査主体者	新潟大学	
㉗	城内町古墳群	栃木市	古墳
	調査主体者	國學院大學栃木短期大学	

◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

番号	遺　跡　名	市　町　名	主な時代
㉘	山の神遺跡	さくら市	古墳～平安
㉙	鷲宿遺跡	さくら市	中世
㉚	星ノ宮遺跡	市貝町	中世～近世
㉛	助五郎内遺跡	市貝町	古墳～平安
㉜	北ノ内遺跡	市貝町	奈良～平安
㉝	頼朝塚古墳群	市貝町	古墳
㉞	平出城跡	宇都宮市	中世
㉟	吾妻古墳	壬生町・栃木市	古墳
㊱	寺之後遺跡	佐野市	古墳～平安

◆北関東自動車道全線開通記念「つながる北関発掘展」開催◆

平成 23 年 4 月 16 日（土）から 5 月 15 日（日）まで、栃木県立博物館において、「つながる北関発掘展」を開催いたしました。栃木・茨城・群馬の路線内で発掘調査が実施された 17 年間、約 150 遺跡から、栃木県を中心とした選りすぐりの 57 遺跡から遺物約 1,500 点と調査時の写真パネルなどを展示しました。会場には約 1 ヶ月間で 6,800 人ほどの観覧者があり、北関東三県それぞれの特徴ある考古資料から、悠久の文化や地域の交流について感じ取っていただけたと思います。

また、5 月 7 日（土）の遺跡報告会には 130 人の参加があり、路線内の特徴的な遺跡について、各県の発掘担当者から分かり易い説明がありました。

なお、5 月 21 日～ 6 月 19 日まで茨城県立歴史館、7 月 3 日～ 7 月 19 日まで群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘情報館において、それぞれの県を中心とした「北関発掘展」が実施されます。

■平成 23 年度巡回展　栃木の遺跡　―最近の発掘調査成果から―■

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されております。その成果をできるだけ早く、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展　栃木の遺跡」を開催しております。今年は県南・県北の県立２施設において、下記の日程で開催します。ぜひ、ご来場ください。

※都合により展示資料が変更になることがあります。

展示遺跡と主な展示資料

旧石器・縄文時代

片府田富士山遺跡（大田原市）石槍・縄文土器（4500 年前）・石器

縄文時代

下上遺跡（宇都宮市）　縄文土器（4000 年前）・石器

古墳時代

結城街道北遺跡（下野市）　竪穴住居跡・方形周溝墓出土土師器

首長原古墳（那珂川町）直刀・鉄鏃・勾玉・管玉・耳環

牧ノ内古墳群（小山市）大型竪穴建物跡出土須恵器・土師器

吾妻古墳（壬生町・栃木市）　銀装刀子・金銅製帯金具

奈良・平安時代

北ノ内遺跡（市貝町）　墨書土器・動物の足跡がついた須恵器

下野国分尼寺（下野市）土師器・瓦・鉄製轡

神主・茂原官衙遺跡（宇都宮市・上三川町）　人名瓦

新町遺跡（佐野市）　須恵器・土製品（鏡・人形）

鎌倉～室町時代

長沼城跡（真岡市）　内耳鍋・楠葉産（大阪府高槻市付近）瓦器坏
京都系土師質土器皿・小仏像

❖ 開催館のご案内 ❖

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

平成 23 年 4 月 16 日（土）～ 6 月 19 日（日）
下野市国分寺 993　TEL 0285-44-5049

○栃木の遺跡展示解説会

6 月 19 日（日）15：00 ～ 16：30

※埋蔵文化財センター発掘調査報告会（会場同センター）のあと、資料館でセンター調査担当者が展示資料を解説します。

栃木県立なす風土記の丘資料館

平成 24 年 2 月 4 日（土）～ 3 月 18 日（日）
展示会場は小川館になります
那珂川町小川 3789　TEL 0287-96-3366

○風土記の丘成果発表会・遺跡発表会

2 月 19 日（日）10：00 ～　定員 60 名

利用案内（２館共通）

開館時間　9：30 ～ 17：00
（入館は 16：30 まで）
休館日　月曜日（祝日・休日を除く）
祝日・振替休日の翌日

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ http://www.maibun.or.jp をご覧のうえ普及事業担当まで　TEL 0285-44-8441